

# フォレストニュース

植林が地球を救う

平成28年(2016)9月10日

No. 105

発行 高津啓洋

## 奉仕隊の活躍に感謝

### 緑豊かな国目指し

8月25日から9月10日までの、パンタール植樹プロジェクトが、青年を中心に14名の人たちで始まりました。パラグアイ国は元々豊かな森が広がっていた国でした。しかし、今日では単位面積当たりの木の伐採率が世界一でもあり、砂

漠化の進行度合いも深刻です。多くは、焼き畑と、牧場づくりに木が切られて、国をあげての植樹キャンペーンの成果がなかなか現れていないそうです。

植樹活動は、北部のアルトパラグアイ州、ディアナ村に奉仕活動を展開しました。パラグアイ川の対岸はブラジル国で、学校周辺に並木のようにニームとブーゲンビリアの木を植樹し、また、学校や教室の修復なども、時間の

許す限り行いました。

校長先生と先生方をはじめ生徒たちも、共同で植樹活動を行いました。また、学校修復では、禿げたりした学校の周囲のペンキ塗りを村から感謝を受けました。

私がレダに着いた翌日、3月9日午後5時半パラグアイの持つ最大の軍艦がレダの港に寄港しました。艦長以下35名の構成で新しい海兵隊の訓練を兼ねてアスンシオンからバイアネグラまで往復すること。途中、レダの港に立ち寄り1夜停泊したいとの連絡が事前に行っていました。レダでは羊と豚とパクをほふって最大限の歓迎をしました。みんなふんだんな食事を満喫したのち、ある人はプールで泳いだりしてひと時の息抜きをしていました。レダは突然の訪問客が多くいるのもうれしいですね。艦長と女性隊員3人はゲストハウスに宿泊しました。艦長はレダの心からのもてなしにとっても感謝して何度もお礼を述べて、次の日、朝6時前に出航していきました。(北中さんのパラグアイ訪問記は、一旦終了します。帰米して友人と次の計画を練っています)

## パラグアイ訪問記



フレンドリーなレダは楽園



ニームの木を植える



きれいになった校舎の前で